

平成27年度 第5回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成28年3月3日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第5回 総合教育会議	
日時	平成28年3月3日(木) 午後4時00分～5時30分
場所	市役所西館7階 第2委員会室
構成員	佐原 光一 市長、朝倉 由美子 教育委員長、 高橋 豊彦 教育委員長職務代理者、芳賀 亜希子 教育委員、 渡辺 嘉郎 教育委員、加藤 正俊 教育長
事務局	加藤 喜康 教育部長、金子 尚央 教育部次長、村田 敬三 教育政策課長、山西 正泰 学校教育課長、森田 教義 生涯学習課長、 鈴木 教仁 こども未来政策課長、前田 豊彦 こども家庭課長、 中田 浩次 教育政策課主幹、久野 哲司 教育会館長 ほか全13名
その他	傍聴人 なし

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

- 1 豊橋市教育大綱について
- 2 教育大綱の周知方法について
- 3 子どもの貧困の状況について

連絡事項

- ・次回開催日程

平成28年4月28日(木) 午後4時から市役所西館7階第1会議室

(市長)

協議事項1の「豊橋市教育大綱について」ですが、教育委員会にて策定された教育振興基本計画改定版と内容の整合を図り、策定していくとのことでした。今回、大綱の案が出来上がりましたのでこの場で皆さんと意見交換したいと思います。

協議事項

1 豊橋市教育大綱について

■教育政策課長 協議事項について説明（別添資料）

(高橋委員)

「学校では…」の中の三つの項目の順番ですが、「一人ひとりを大切にした教育を進めます」が一番上にした方が優しくていい感じがする。定例会でも指摘させていただいたが、「市長から子どもたちへのメッセージ」で、前は2段落目に「子どもたちが失敗をしても、何度でもやり直しができる環境を用意します」という一文だった。本当にこれがあるならいいなと思ったので、用意している環境とは何なのかという関連性を示せるといいなと言ったら、その文章がなくなってしまった。

(市長)

何とかの環境を準備するというのは、いかにも役人言葉で言葉が難しいから落とすと聞いている。

(高橋委員)

環境という言葉はいいのですが、「子どもたちが失敗しても何度でもやり直しできる」という、あまりこういう所で使わない言葉をあえて使うと、強烈なメッセージになると感じた。そのメッセージを具体的なアクションプランにつなぐのが、「学校では…」「家庭では…」「地域では…」のどことつながるのかが見えるといいという話をしたつもりでした。

(市長)

「失敗は、何度しても大丈夫です」は、3段落目に行った。

(朝倉委員)

「やり直しができる」という所がなくなった。

(高橋委員)

具体的にやり直しができるというのは、どこに当たるのかが見えるといいですねと言ったつもりでした。

(市長)

「何度でもやり直しができるといい」というのが入っていた方がいいというのが一つ。それに対する政策、施策がどこに入ってくるか。言葉としては、「失敗しても、何度でもやり直せる」と入れればいいですね。それに対する政策は、どこで読むと事務局は考えてい

るのか。先生がそういう目で見えてあげてくださいと見るのか、地域が支えると見るのか、家庭で頑張らしましょうねと読むのか。まずは学校ですよ。

(高橋委員)

本当は、全部ですよ。でも、全部書くと大変になってしまう。この中身は地域の方にこういうことを目指すので、理解して協力して欲しいとお願いするのでしょうかと話した。メッセージ的なものが少し具体化されるといい。

(教育長)

これは、やり直しをするということを言いたいわけですか。それよりも市長のメッセージを読むと、いろんな体験や学びの経験の場を用意しますから果敢に挑戦して欲しい。失敗を恐れずにまずやってみよう。

(市長)

「やり直す」という意味は、同じことをやり直すという意味ではなく、いろんな角度からやっていけるでしょうと、成功するまで同じことを何度もやりましょうと両方ある。同じことを何度も何度もできるまでやりましょうということもあるし、もう一ついろんなことをやって、得意なものを見つけてそれを頑張っていきましょうと両方ある。

(教育長)

失敗を恐れて動かないのではなく、失敗しても大丈夫だから思い切って挑戦してごらんよというメッセージという気がする。

(高橋委員)

もしそういうことでスパッと言い切ってしまうと、ここでまとまる気がする。そもそも「環境を用意します」とあったので、何を用意するのかということが前回の話題でした。

(市長)

「環境を用意します」は、いかにもしつらえてあげますという感じの役人言葉なので、子どもへのメッセージとしては違うかなと思ひ、その言葉をなくした。

「学力と体力を向上させます」と「一人ひとりを大切にした教育を進めます」のどちらを上にするかは、考え次第。通常では逆だろうが、「学力・体力」を上にしたのは、いくらなんでも最下位から脱出しようということがあった。

(教育長)

市長からのメッセージは、教育理念、周りに書いてあるのは具体的なファクターの部分についてもっと強化していきますよということだから、順番はあえてランダムに並べると言うならこれでもいいし、構造的に読んでもらうなら変えておいた方がいい。

(市長)

私はわざと「学力、体力」を上にした感じがあって、「最下位から脱出しよう」というのが基本にある。

新聞の話題ですが、愛知の新聞はあまり教育の在り方を話題にしない。静岡新聞は年がら年中教育の話題。総合教育会議について静岡の全市をまとめた特集を見ると、1回しか

やっていないところから8回もやっているところがある。やり方も大綱をやるだけのところと地域の教育の在り方を話し合っているところと色々ある。教育は大事だから、地域の話題にしようと一生懸命。愛知県は事件ばかり載っていて、地域であってもお祭りがどうかとか、もっと議論しなければいけないことがあるのに載っていない。知事の性格の違いもあるが、教育に関しては話題にしているということが違う。教育の世界は静岡新聞を読んでいないといけない。5年制の高校も作った。

それでは、「学校では…」の項目は、「一人ひとりを大切にした教育を進めます」を上して、「学力・体力」を下にしましょう。

(教育長)

「学校教育の推進」について、アクションプランで言うと一番上が「学力、体力の向上」になっているが、こちらの方の順序性はないのか。これは振興計画の順番にならべたもの。

(市長)

振興計画での順番は基礎学力として「学力・体力の向上」をあげているが、メッセージとしては「一人ひとりを大切にした教育を進めます」をアピールし、個に応じた教育ををしたい。だから少人数教育なんだと。

(朝倉委員)

「一人ひとりを大切にした教育を進めます」とか「学力・体力の向上につとめます」が黒枠で囲まれているが、太文字でいいのではないか。重箱の隅をつつくようだが、2行目は、体づくり運動とありますが、これは、何ですか。

(学校教育課長)

学校の仕組みでの固有名詞です。

(高橋委員)

固有名詞ならカギカッコにすればいいのではないか。

(市長)

まだ間に合うのなら全部カギカッコ付きに変えた方が良い。

(学校教育課長)

間に合いますのでそうします。

(教育長)

項目の黒枠はなくして、ポイントを上げて太文字ゴシックでどうか。

(朝倉委員)

市長のメッセージで、「勉強が好きな子には勉強を、たとえ勉強が得意じゃなくても…」で、最後が「好きを応援する」ので、「たとえ好きじゃなくても」とするのとか、「たとえ」がいるのか。「好きを伸ばすような応援をしていきます」とか、「好きが実るような応援をしていきます」と、後ろに一言付くと柔らかく感じると思う。

(市長)

「たとえ勉強は得意じゃなくても」は要らないかもしれない。そのまま読んでも何も不

思議ではない。

(高橋委員)

文脈はどちらでも通じると思いますが、市長のメッセージとして、勉強だけの価値観は払拭して下さいという思いを強く出したいなら、このセンテンスは残したい。

(朝倉委員)

私が引っ掛かったのは、「得意でなくても」の部分、「好き」と「得意」はイコールではないという気がする。好きだけ出来ないというものもある。

(市長)

「得意じゃなくても」ではなく、「好きじゃなくても」でいいかもしれない。「好き」と「得意」は別物です。小学校の頃、算数が全然できなくても中学、高校に入って数学になった途端、めっちゃめっちゃできる子がいる。

(渡辺委員)

文章を同じ読点で区切っているから何となく読みにくく、どこに何が掛っているかが分かりにくい。

(朝倉委員)

最初は、「勉強の好きな子には勉強を」と具体的、あとは具体的には書けないということがあるので、それぞれを「好き」でまとめている。

(市長)

「たとえ勉強が好きじゃなくても」か「得意じゃなくても」は皆さんどちらが良いですか。あまり「好き」ばかり出るとくどい感じがしますが、「なくても」の後の読点が入るかなど、今の意見を踏まえて一度事務局で整理をしてください。

(教育政策課長)

勘違いがないような形で一度整理をします。

(渡辺委員)

前回の定例会で発言したのですが、最初に「あなたの夢は何ですか?」とあり、次のページも「あなたの夢は何ですか」だったのが、「みんなの夢をかなえるために」に変わっています。二つ目を「みんなの夢を」にするのか。最初のように「あなたの夢を」とするのとどちらが良いか。これを誰が読むのかということもあるが、「あなたの夢を」とすると、子どもたちが自分のことかなと思って読むのだろう。「みんなの夢」だと保護者や他の人を対象としているように受け取れると思う。

(市長)

「あなたの夢」だと一人ひとりに読んでね、という感じ。開けてみたら「みんなの夢」と普通のことが並んでいるなという感じになってしまう。折角可愛いイラストが入っているのに、全体的に活字も硬く、夢らしくない。

(教育長)

市長のメッセージも一人ひとりの子どもに対するメッセージになっている。

(教育政策課長)

市長のメッセージの最後の段落で、「みなさんが大人になったとき、自分も豊橋で…」との投げかけがあるので、それを意識しました。

(教育長)

それは、言葉では「みなさんが」となっているが、一人ひとりの子どもたちに呼びかけている。

(市長)

メッセージは、「みなさん一人ひとりの個性や…」と言っている。沢山いる人たちに呼び掛けると読むか、それぞれの子ども一人ひとりに呼びかけて「みなさん」と言っているかと読むかが問われている。最初は「あなた」だったのが、「みなさん」に変わった。確かに、渡辺委員が言うように、もらった子どもは表紙を見て「僕の夢」と思うが、開いて「みんな」かとなると違和感がある。

(芳賀委員)

このパンフレットは子ども一人ひとりに配るのですか。

(市長)

各家庭に配付します。お母さんと子どもと一緒に見て欲しいと考えていますが、お父さんも、おじいちゃん、おばあちゃんも読んで欲しいと思っています。

(芳賀委員)

前回の議論は、表紙で「夢は何ですか」と聞いていて、開くと「夢をかなえるために」、家庭では、学校では、地域ではこういうことをしますよと言っているので、むしろ「あなたの」というより、「何ですか」という文面を変えた方がいいということだった。「何ですか」と言って、それを家庭、学校、地域でどう提供するかを記しています。むしろ、「何ですか」という言葉でなく、「かなえるために」ということでした。ただ、「あなた」と「みんな」の議論はしていなかった。2行目の部分に注目していて、上はあまり見ていなかった。

(教育政策課長)

定例会では、表紙も見開きのページも「あなたの夢は何ですか」と同じでしたが、渡辺委員から、表紙は「あなたの夢は何ですか」なら、開いたところは「かなえるために」の方が良いのかという意見が出された。

(市長)

皆さんの意見では、言葉は「あなたの夢をかなえるために」で良いのではないか。受け取った人の立場で見たときに、どちらが読んでみようかな、考えてみようかなと思うか。「みんなの」と言うと、「地域では…」の感触になる。

(教育長)

改めて考えてみると、「あなたの夢は何ですか」と投げかけて、みんなそれぞれ違うし、違っていい訳です。開けた時、それぞれ違う子どもの夢を総称して「みんなの夢」と言っ

ているので、これはこれで意味は通じる。市長のメッセージで「みなさんが大人になったとき…」の「みなさん」もそれぞれ違う一人ひとりを総称して言っている。あえて言葉を足せば「みなさん一人ひとり」だが、そうしなくても意味は読み取れる。

(市長)

正確に言うと、みんなそれぞれが持っている夢をかなえる。

(教育長)

この件については、渡辺さんが一番こだわっていましたが、いかがですか。

(渡辺委員)

素直にパッと見て、開いたら違和感を覚えました。

(学校教育課長)

学校現場にいた立場から、学級で配ったときを考えると、「あなたの夢は何ですか」という問いかけが表紙にあってそれぞれの子どもが心の中で答えて、開いたとき、隣の子も「あなたの夢をかなえるために」と同じ言葉があるとどうなのだと思ってしまう。その時に「みんなの夢をかなえる」とあると、僕もあの子も隣の子もと、みんなの夢がかなう秘密がここにあると受け取れることができ、良いと思う。

(高橋委員)

あまり個人、個人でやると、間違った個人主義的な発想になってしまう恐れがあるということを考えると、今の話は理解しやすい。

(教育長)

個々人の夢をかなえるために、学校環境のこういうところに力を入れ、家庭の環境や地域の環境を整備する中で、あなたたちの夢を育てていきますという構造になっている。

(芳賀委員)

「みなさん」ではなく、「みんな」でないといけないんですね。市長のメッセージは問いかけだから「みなさん」となる。

(市長)

私のメッセージは少し大人向けになっている。

(教育長)

市長のメッセージだから「みなさん」が良い。

(渡辺委員)

一人ひとり夢が違う、中身はそれぞれ違うので意味は通じる。でも、受け取った側からすると、「みんなの」と言われると、何だと思ってしまうという印象を受けた。「あなたの」と言われた方がドキッとして中身を読んでみようかとなる。「みんなの」とあると、みんなのだからいいやと読まないと思った。

(市長)

最近の子どもたちを見ていると、自分だけが特別と思いたくないので、「みんなと同じように」という意識を持ちたがると感じる。特に小学校の内は皆と同じように立派な大人に

なりたいと思っているように感じる。

(渡辺委員)

教育委員会のように、みんな違ってみんないい方がよい。みんな同じ教育をするより、みんな違うという教育をする方がよい。

(教育長)

ここで「みんな」と言うと、5人が5人みんな違う夢なのに、同じ夢ととらえられるということですか。みんな違っている夢ですが、A君、B君、C君、それぞれに声をかけた時に、みんなの夢をかなえるためにという捉え方はどうでしょう。

(市長)

これは、事務局提案でいきましょう。

(教育長)

最後のタイトルで、「郷土への誇りと愛着を育みます」とあります。説明文の最後は愛着心を育みますとあり、育むのは心をはぐくむのだから心を付けた方がよい。

(高橋委員)

学校、家庭、地域の背景の色で、学校のところだけ、寒色の青を使っているが、何か意味がありますか。

(市長)

前は空の位置に学校があって青があったので気にならなかったが、今の配置だと気持ち悪いねと事務局に言った。

(高橋委員)

学校の背景が寒色で、冷たい感じなので、できたらみんな暖色系で温かい感じにして欲しい。

(教育長)

今回、学校と地域を入れ違えたのはどのような経過だったか。

(高橋委員)

学校が中心より、地域と学校が家庭を支える方がよいのではないか、優しさが出るのではないか、という話をさせていただきました。

(市長)

本来、家庭にもっと力を入れて見て欲しいというイメージを表現したと聞いている。学校はイメージとして何色ですか。バラ色ですか。

(朝倉委員)

家庭はもっとオレンジぽい色だった。黄銅色になってしまい、前の方が良かった。

(市長)

どうして色が変わったのか。印刷機の問題なのか。あまり寒色でない方がいいかな。暖色にするなら何色がよいかな。

(高橋委員)

学校が冷たいイメージとなるといやなので、明るい空をイメージしたもう少し明るい青にして欲しい。

(教育長)

バランスから言うと、左の「学校では…」の文字数が多くて詰まっている感じがする。

(市長)

本当は、家庭と地域が横並びで学校は違う空間。家庭と地域が学校を支える方が文字数からいってもバランスが良い。元に戻せば、青も空の青で違和感がなくなる。

また、「みんなの夢をかなえるために」が柔らかい感じの活字を使っているのに、他の活字が固いのが気になった。

(朝倉委員)

市長の名前は自筆の方がいいかな。

(市長)

自分で書いた方がいいかな。

(芳賀委員)

「家庭では…」の中で、「いのち」と「生活習慣」と、ソーシャルスキルと言うか何と言うか人格形成上大事な部分に何か良い言葉はないのかな。

(市長)

生活習慣は歯を磨いたり、お風呂へちゃんと入ったりということを指していますね。

(芳賀委員)

知・徳・体の知は学校に入るからいいのかな。人格形成の根っこに心があるからいいのかな。

(市長)

命を大切にすることを限って書いてあるが、ここだけ具体的で、他は割と何々などとなっているが、これは何か思いがあるのでしょうか。

(教育政策課長)

学校教育の推進のアクションプランの二つ目の「いのちを尊び、自他をいつくしむ豊かな心の育成」からとりました。

(市長)

ここに書き込むとしたらどんな心かな、いのちなら自分のいのち、人のいのち、全てのいのちがあるけど、他に情操教育で家庭に求められるものと言えば。

(芳賀委員)

情操教育と言うか、社会的行動が取れていけるようなもののベースは、心で、全てのベースにあるという状況であればいいのかな。社会的な常識という意味で規範意識とか善悪基準とか色々あるが、いのちを大切にすることを心があるから良いと思う。何となく足りない気がする。心と生活習慣があって、生きていく一番ベースの根っこの人とかかわることの中

で情報モラルも入ってくるので重要。すごく大きな影響を与えるので良い言葉がないかな。ソーシャルスキルのなものなのですけど、社会規範ではここにはまらないので何かうまい言葉はないのかとどうしても気になっている。

(高橋委員)

そこまで入り込むと全部変えなきゃいけない気がする。

食育がスタートした頃、服部幸應さんが明確に食育について言っている。三つあって、「選食力」、「マナーやしつけ」と「地球規模で食を考える」。そうするとこの中にほとんど入ってしまう。モラルはグローバル社会になってくるとモラルというよりむしろリテラシー能力の方が実は必要になると言ったとき、モラルはどうだろうというと、今の芳賀委員のように分からなくなってしまう。

原点のいのちを大切にすると書いてあれば、そこから先に発生してくることであると考えるとどうでしょうか。

(市長)

また、素晴らしい言葉を考え付いたら教えてください。それでは、今回の意見を反映し、活字、色のバランスに配慮して仕上げた物を各委員に確認いただいた上で最終原稿にしていきたいと思います。

2 教育大綱の周知方法について

■教育政策課長 協議事項について説明 (別添資料)

(市長)

全戸にこういう形で届けるということ。できることならFMとよはしでも伝えて欲しい。他にこんな手段でも伝えていただきたいなという意見があればいただきたいと思います。

3 子どもの貧困の状況について

■学校教育課長 協議事項について説明 (別添資料)

(市長)

私が問題提起させていただいたのは、名古屋などではこれを取り上げて、塾に行けない子に放課後に教えるなど、負の連鎖を生まないためにいろんなことをやっているからです。我々は今のところ、学校の費用の中のサポートはしているが特段の指導はしていない。

(教育長)

未来部はやっているでしょう。

(こども家庭課長)

福祉の面でやっており、生活福祉課が、生活保護世帯や生活困窮世帯の中学生、高校生を対象に学習支援事業を毎週やっている。本年度からこども家庭課でも一人親家庭の中学生を対象に、月に2回大学生のボランティアを使い学習支援事業を行っている。

(教育長)

行っているのは一か所か。

(こども家庭課長)

生活福祉課がカリオンビルで一か所、こども家庭課はモデル的にやってみようということで市営住宅が多い東部校区の豊校区市民館一か所でやっています。

(教育長)

市内全体への拡大の構想は持っているか。

(こども家庭課長)

今後、拡大を検討していきたい。

(市長)

小学生の子は児童クラブなどで、宿題を見てもらう所まではやっている。ただ、分からないことを教えてもらうことまではやっていない。教員のOBなど多いが、そこまではなかなか難しいのかな。

今のところ問題提起の段階ではありますが、名古屋市は夜間中学校までやっている。10%を超える家庭が要保護と準要保護に当たるという驚きの数字になっている。

(渡辺委員)

要保護とは、生活保護ですか。

(教育部長)

生活保護世帯が要保護で、準要保護はその1.3倍の所得の世帯です。

(市長)

一番注意しなければならないのは、地域間格差で、周りもそうだと、そういう環境でいい、それが普通だと思ってしまうこと。勉強しなくていいし、例えば高校へ行かなくてもいいと思ってしまうのが辛い。外国人問題も共通するところがある。

(芳賀委員)

こういう援助が受けられるのは申告制で、申し出ないと受けられないのでしょうか。

(教育部長)

全世帯に配付して、条件を周知します。保護者への振り込みなので周りには分からない。

(高橋委員)

生活が急変してしまうケースもあり、実態把握を継続的にしていく必要がある。世帯に対する制度の話、子どもに対するよりどころとしての場所を設置することなど手法がたくさんある。今見る限り割合として低くて、そのままに置いて良い状況というわけではない。また、数字に出てこない部分をどうとらえるかということも含めて考えたい。

(市長)

この中に死にそうになっている人がいるかも知れないし、少し手を差し伸べただけで人生が変わるケースもあるはず。

(高橋委員)

先ほど、市長が勉強のことを言われたが、子ども食堂の話が注目されていて、子ども食堂をやるためのセミナーがあると、結構な人数の参加がある。

(市長)

それはどういう意味で、支えなくてはという。子ども食堂で悩んでいるのだが、週に1回とか、月に1回とか、毎日という所はほとんどない。

(高橋委員)

継続的に考えると、物を食べるという経済的側面から考えるか、居場所、よりどころという意味で注目されているのか、を考えなくてはいけない。ただ、今この数字を見て、何をやるかと言われると、正直なかなか言いづらい。

(朝倉委員)

お父さんは、会社員で社宅にも入っているのに、お母さんがそういう対応ができないということで、子どもがあざだらけ、体操服も汚れたままで、交通指導員のおばちゃんが学校に通報した。当時はまだ児相も踏み込めない状況だったのでそのままになってしまった。それは経済的な問題ではなくて出てきてしまった事例、精神的な貧困の部分もあるのかな。

(市長)

そういう子ども助けようというのが本来の形。

(高橋委員)

年齢を重ねることでだんだん言えなくなるので、市町によってやりかたがあるだろうが、早いうちにこういうことがあるならこうして良いというようにした方が良いのだろう。

(芳賀委員)

駆けこめる場所というか、小さいうちから理解できていると大人には頼れない人たちなので、ここに行けば大丈夫だという場所が大事。

(渡辺委員)

これを読むと先生たちが結構頑張っている。ここに書いてあるように、今、豊橋で実際に行われているのか。だとしたらどの程度負担になっているか。

(学校教育課長)

学校によって様々で、負担を感じているかは分かりませんが、学校に戻ってくれば業務が、残っているのは実態。

(渡辺委員)

本来業務という考え方なのか、そうではないと思っているのか。

(学校教育課長)

本人の性格もあり、放っておけないと考える方は入りこんでいくだろうし。

(教育長)

給食費の未納の問題で、現場から声が上がってきて、もちろん請求はするが、未納欠損という処理ができるように変えてもらった。多忙化の解消の一つとして、多少の緩和はできた。

(市長)

請求はするし、行政手続きをして裁判にも持ち込みますよ。

(教育長)

多忙化の解消の一つとして、渡辺委員が言われたようなことは常に俎上に上る。今後も現場教員の多忙感の解消については、できるだけ取り上げていただいて、整備できるところは進めていきたい。

(渡辺委員)

この記事を見ると、システムとして対応できるところまでは、できていないのか。

(市長)

日本は申告申請主義。こういう制度があることを知らない限りは、ずっとそのまま。届けたい人ほど届ける場所に来ない。先生たちの負担感は、こちらのケースよりクレーマーの方がきつい。市役所が今年から庁内弁護士を採用しており、弁護士資格を持った方に職員として勤務いただいている。この制度を行政上のトラブルも含めいろんなケースで相談に対応してもらっている。

もう一点、高根小学校は、いつから工事に入りますか。

(教育政策課長)

業者決定が6月、議会決定が10月の予定です。

(市長)

高根小学校にエアコンは予定していないが、要るのですかね。断熱の高い構造にすると日当たりが良ければかなり暖かい状況になる。冷房を入れてますます弱い子になってしまうことに抵抗がある。

(教育長)

今、扇風機を4台入れてくれている。どれぐらい効果があるか現場で確かめたが、天窓を開け、扇風機を使えばかなり過ごしやすかった。

(市長)

高根小学校で、教壇をなくしていいかなと考えている。結構高いので、その予算を他に使うことができ、教室がフラットになることで使い勝手が良くなると考えられる。

天井も基準が低くなっているので、張らずにグリッド天井にすれば作品などもつるせる。

(教育長)

一度、高根小学校をモデルケースでやってみて、駄目なら途中から買うこともできる。

(市長)

2学年がまとまって食べられるランチルームがある。週のうち1、2回は他の学年と一

緒に給食を食べる。

(教育長)

体育館の横に舞台を作ったのは、活用という視点からこうしたのか、方角的なことからそうしたのか。

(市長)

活用から考えた。競技の応援をするのにもこの方が全体を見ることができる。階段も階段教室ができる階段にしてある。トイレは全部洋式にした。

また、前芝学校について、教育委員のみなさんからいろんなご意見をいただきたい。

(教育長)

前芝学校は、施設隣接型なので、ハードを整備して教育課程について先行的に研究をして進めているが、組織も校長を一人にする方が良いのかなど検討が必要。

(委員長)

そうすると、中学生は7、8、9年生となって卒業式は最後の9年目だけになりますか。

(市長)

寂しいかな、そのままその学校の中にいるのだから。初等部・中等部と分けていると卒業式をやる手もある。お母さんたちが初等部を終わったらと、言うかな。

(高橋委員)

行事を途中に入れる方法もあるだろうし、多学年になって、年少者や年長者がお互いにかかわれるメリットを活かして色々な仕掛けができる。

(市長)

私の子どもも日本人学校で小中一緒にやっていたが、中学生になってすごく変わった。中1だといじめの対象みたいに言われるが、小1だとお兄ちゃんお姉ちゃんは可愛くて仕方ないという状況になるので、年齢差が大きくなることは、良いことだと思う。

(教育長)

6・3制で、小5、小6で一気に成長をすることがある。最高学年としての大きな成長をする機会を奪わない工夫が必要。

(市長)

小さな日本人学校で、生徒会は一本だが、そういう機会が奪わないように小学校の方からも必ず役員を選ぶようにしていた。

連絡事項

- ・ 次回開催日程

平成28年4月28日(木) 午後4時から市役所西館7階第1会議室